

京坂日報

千四 編目
（一）日本新聞社
（二）東京新聞社
（三）大阪新聞社
（四）京都新聞社
（五）神戸新聞社
（六）名古屋新聞社
（七）福岡新聞社
（八）仙台新聞社
（九）札幌新聞社
（十）旭川新聞社
（十一）網走新聞社
（十二）稚内新聞社
（十三）紋別新聞社
（十四）釧路新聞社
（十五）帯広新聞社
（十六）旭川新聞社
（十七）網走新聞社
（十八）稚内新聞社
（十九）紋別新聞社
（二十）釧路新聞社
（二十一）帯広新聞社
（二十二）旭川新聞社
（二十三）網走新聞社
（二十四）稚内新聞社
（二十五）紋別新聞社
（二十六）釧路新聞社
（二十七）帯広新聞社
（二十八）旭川新聞社
（二十九）網走新聞社
（三十）稚内新聞社
（三十一）紋別新聞社
（三十二）釧路新聞社
（三十三）帯広新聞社
（三十四）旭川新聞社
（三十五）網走新聞社
（三十六）稚内新聞社
（三十七）紋別新聞社
（三十八）釧路新聞社
（三十九）帯広新聞社
（四十）旭川新聞社
（四十一）網走新聞社
（四十二）稚内新聞社
（四十三）紋別新聞社
（四十四）釧路新聞社
（四十五）帯広新聞社
（四十六）旭川新聞社
（四十七）網走新聞社
（四十八）稚内新聞社
（四十九）紋別新聞社
（五十）釧路新聞社
（五十一）帯広新聞社
（五十二）旭川新聞社
（五十三）網走新聞社
（五十四）稚内新聞社
（五十五）紋別新聞社
（五十六）釧路新聞社
（五十七）帯広新聞社
（五十八）旭川新聞社
（五十九）網走新聞社
（六十）稚内新聞社
（六十一）紋別新聞社
（六十二）釧路新聞社
（六十三）帯広新聞社
（六十四）旭川新聞社
（六十五）網走新聞社
（六十六）稚内新聞社
（六十七）紋別新聞社
（六十八）釧路新聞社
（六十九）帯広新聞社
（七十）旭川新聞社
（七十一）網走新聞社
（七十二）稚内新聞社
（七十三）紋別新聞社
（七十四）釧路新聞社
（七十五）帯広新聞社
（七十六）旭川新聞社
（七十七）網走新聞社
（七十八）稚内新聞社
（七十九）紋別新聞社
（八十）釧路新聞社
（八十一）帯広新聞社
（八十二）旭川新聞社
（八十三）網走新聞社
（八十四）稚内新聞社
（八十五）紋別新聞社
（八十六）釧路新聞社
（八十七）帯広新聞社
（八十八）旭川新聞社
（八十九）網走新聞社
（九十）稚内新聞社
（九十一）紋別新聞社
（九十二）釧路新聞社
（九十三）帯広新聞社
（九十四）旭川新聞社
（九十五）網走新聞社
（九十六）稚内新聞社
（九十七）紋別新聞社
（九十八）釧路新聞社
（九十九）帯広新聞社
（一百）旭川新聞社

駆逐艦六、輸送船四隻 巡洋艦九隻を轟沈破

飛機十、舟艇四十を屠る

大日本海軍（五五五）

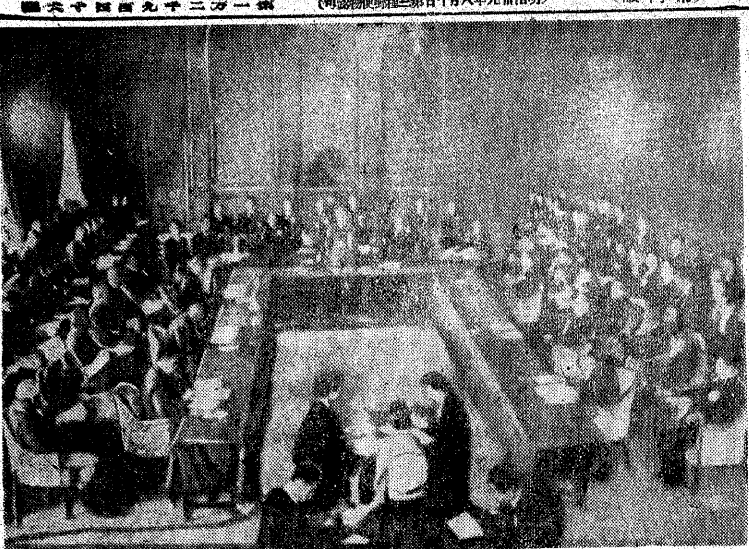
（一）敵艦隊は、十月二十一日、我が艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。

敵一部ブーゲンビルに上陸

（二）敵艦隊は、十月二十一日、我が艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。

二百四十機撃墜

（三）敵艦隊は、十月二十一日、我が艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。



送電...相首條東をす挨拶は央中 景全議會亞東大

日一第議會亞東大

（四）大東亞會議は、十月二十一日、東京で開催された。会議は、東條首相の演説で始まり、各国代表の演説が続いた。東條首相は、日本の立場を明確に述べ、大東亞會議の意義を強調した。会議は、午後五時に閉幕した。

米英の非望を破摧 歩まん天地の公道

堂々たり、東條首相發言

（五）東條首相は、大東亞會議で、米英の非望を破摧し、歩まん天地の公道を主張した。首相は、日本の立場を明確に述べ、大東亞會議の意義を強調した。首相の演説は、会場を沸かせた。米英の代表は、首相の演説に、複雑な表情を浮かべた。

（六）東條首相は、大東亞會議で、米英の非望を破摧し、歩まん天地の公道を主張した。首相は、日本の立場を明確に述べ、大東亞會議の意義を強調した。首相の演説は、会場を沸かせた。米英の代表は、首相の演説に、複雑な表情を浮かべた。

（七）東條首相は、大東亞會議で、米英の非望を破摧し、歩まん天地の公道を主張した。首相は、日本の立場を明確に述べ、大東亞會議の意義を強調した。首相の演説は、会場を沸かせた。米英の代表は、首相の演説に、複雑な表情を浮かべた。

志願に後れては恥

大野學 再び半島學徒に檄

（八）大野學は、再び半島學徒に檄を飛ばした。大野は、志願に後れては恥と述べ、日本の立場を明確に述べた。大野の檄は、半島學徒に大きな衝撃を与えた。大野は、日本の立場を明確に述べ、大東亞會議の意義を強調した。

撃墜比率實に九割

我等應へんこの凱歌

（九）我が艦隊は、敵艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。



寡兵四百を撃破

兒島將校侯の偉勳

（十）我が艦隊は、敵艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。

（十一）我が艦隊は、敵艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。

艦艇三百以上

敵艦隊に上陸以来の戦果

（十二）我が艦隊は、敵艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。

長短互ひに補はん

努力を文化の融合

（十三）我が艦隊は、敵艦隊と遭遇し、激戦を演じた。我が艦隊は、駆逐艦六隻、輸送船四隻、巡洋艦九隻を轟沈破し、飛機十隻、舟艇四十隻を屠る。敵艦隊は、大損害を蒙り、残存艦隻は、我が艦隊の追撃を免れず、退却した。

打撲 擦挫

ピスマン

冷温自在
効果優秀
用法簡便

大東亞會議の歴史的意義

大東亞會議は、第二次大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。

半島學徒と我と共に起て

鐵身を米英撃滅へ

郷土の先輩平山中佐機



郷土の先輩平山中佐機

平山中佐機は、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。

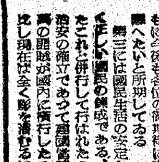
想起す十年の道



想起す十年の道

想起す十年の道は、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。

基礎既に確固



基礎既に確固

基礎既に確固は、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。

所期の増産は確実

各道産の秋播と賑ふ

所期の増産は確実、各道産の秋播と賑ふは、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。

農地労働員に

崇高な國民運動展開

行政要員養成

海事振興會中心

農地労働員に、崇高な國民運動展開、行政要員養成、海事振興會中心は、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。この会議は、大東亞戦争の歴史的意義を明らかにし、大東亞戦争の終結を告げる歴史的な契機となった。

國策券

生産戦
揚る凱歌の貯蓄熱
秋田證券
電話東京五五五五番

少年少女俱樂部

少年俱樂部
少女俱樂部
幼年俱樂部
少年俱樂部
少年俱樂部
少年俱樂部

伊東醫院

内科
外科
婦科
小児科
電話四九四四番

朝鮮鮮火

火災保險
火災保險
火災保險
火災保險
火災保險
火災保險

朝鮮商業銀行

創立明治三十二年
東京市南區大門通二丁目
電話二二二二番

三和工業株式會社

機械製造
機械製造
機械製造
機械製造
機械製造
機械製造

三和工業株式會社

機械製造
機械製造
機械製造
機械製造
機械製造
機械製造

若き情熱漲る闘魂
出陣學徒熱血の雄叫び

脚燈に照された花魁は、髪を二つに下げ、既に髪を髷で繋ぎ束縛された男
 の出掛けを、かへて乗馬は足利連達の馬車まで送り、退散
 する。お春も思ひ通りに、お春は「本願寺詣は、
 本願寺の御會社御参りすは、御願 明非し」本願寺詣は、
 本願寺の御會社御参りすは、御願 明非し

内鮮相携へて決戦へ

[illegible]

十月廿日この日、忘れる
よい傍観者の態度に甘ん
が、斷じて我等は否であ

武蔵新しき日の麒麟甲斐
つて來たのだ、い草薙の
御召し尊嚴の形生臨龍座の
頭上にと下された「龍」は皆ふま
きものにあらず、翻るべきもので
なくはなれど今日この榮ある身に
於ける我輩大なる誇しい龍座で
あるを今もなつかしく思ふ

君山武蔵
今こそ御なる所の白紙が
大に忠臣の胆を驚かすや
捲入するべきはあらず
我々此の世に居る者
こればかり我々は今こそ誠
たるものである。我等は昔より
ありし時分であり平政であら
ない、七民國の過期國民等
次々叩く新し福兵侍等

君も僕も眞裸で進まう

[illegible]

暇園書院（いかりん）につけの命（いのち）下る 出来たのだ

[illegible]

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
84

[illegible]

江上中佐普成真門で

[illegible]

國家の絶大なる期待と重
命を待ち得ようか


 君南山大
 の決断へ關する日
 細部一便の民の朝となる
 信望へ一身に據つて世紀
 の決断へ關する日
 この半世紀一
 恩の証を
 過した向時
 の日々に安
 たかたの如
 きる者
 半世紀の
 恩の証を
 過した向時
 の日々に安
 たかたの如
 きる者

萬國金在書氏

半島人は死を悲
が堪へてゐるとい
ふことになり、な
れた、この言葉は
飛ぶの必要はあり
、第一の者の心
を推測した限つ
かゝる（つ）は私共
あてに寄る言葉で

警備老京賊瑞麟同日歸朝
政務局長在訪れた半點

並に「國を築出し」「華
兵船が布かれ、今また學
問が拓かれ、感感これに過
ぎはありません。然し、
婦人層には未だ「醜態」
をこの千載一遇の好機に
生かしてゐる者もあると
いふ。かゝる婦人を感感打
つて、金にでもして、
と申し出て、貴婦人を

てゐなから来た連中が、半島の婦人層がありまゝ人々を再教育して立派な

母に仕上りたいのです
力がありません、僅か
自分に出るだけのこ
て頂きました
つた

志願學徒數

五日午後十
現在本社屬
半日人樂徒、千職、
門への額は拓かれ
兵へ、學兵へ、と半

[illegible]

敵機動部隊に大鐵槌
輝くブーゲンバー沖空戦

の損害 未歸還機

本航空戦をブーゲンビル島沖航空戦と呼す

豪膽沈着巧妙な戦術

[illegible]

敵の猛反攻一舉に破碎

[illegible][illegible]

戰海沖島ヲ
過經闘戰

[illegible]

本府緊急増米用水事業に断
源擴充施設

[illegible]

萱戌子郎氏を補職

員、諸大寺僧侶等は本省の
 藩政顧問に限らず、大東亞の
 發展に、この幾多の分擔を
 負つた。

漢語塾師に對應して五日附單津
 漢語塾師を配行、同時に兩
 廳長官の駐紮を、これに伴ふ人
 員を發した。

細萱成子

踏走し、
二馬車行を

[illegible]

出陣學徒に榮光輝く

[illegible]

（錠劑）

催乳

母乳不足、
貧血虛弱に

三日月製薬

ビオレバー

母乳分泌の促進と肝
臓強化、ビタミン上の養分供給に
適宜、ヘモグロビン、ビタミンB、
D、E等の鉄絡の過量強身作用あり

三日月製薬



三日月製薬

力ぜ熱に
又チ之熱・原因不
明の發熱に定評す
持藥にして熱の出ぬ強い體にして下さい。

津^{しん}字^じ
救^{きう}
命^{めい}
丸^{わん}

小兒良藥

明治三十五年五月

A black and white illustration of a young child, possibly a toddler, standing and facing slightly to the left. The child has a round face, large eyes, and a small mouth. They are wearing a patterned kimono with a wide collar and dark, patterned pants. The child is holding a thin branch with both hands, which has a single round fruit (like an apple) and two leaves at the end. The child's feet are visible, wearing simple shoes. The background is plain.

朝一夕一粒

心臓・胸胃の弱い方に！


特種動物ホルモン精膽精藥

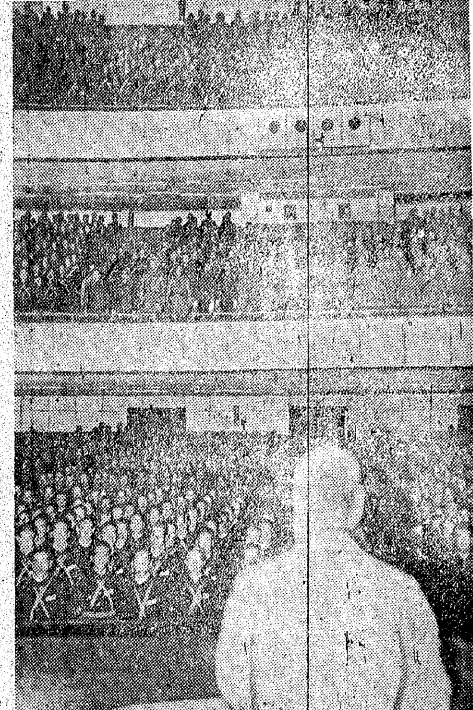
救心

動悸、息切れ、熱、お汗を去り、食慾を増す。
「胃心、眼病の痛風、脚氣、肺癆、肝腎、衰弱、貧血等」
は、皆此薬の「養育力、調節力、調整力」の作用で、今はホルモン療法に常用され、内服の間に投与せらるゝの神劑なり。

(奉還) 一萬分、二萬分、三萬分、四萬分、五萬分、六萬分、七萬分、八萬分、九萬分、十萬分、十一萬分、十二萬分、十三萬分、十四萬分、十五萬分、十六萬分、十七萬分、十八萬分、十九萬分、二十萬分、二十一萬分、二十二萬分、二十三萬分、二十四萬分、二十五萬分、二十六萬分、二十七萬分、二十八萬分、二十九萬分、三十萬分、三十一萬分、三十二萬分、三十三萬分、三十四萬分、三十五萬分、三十六萬分、三十七萬分、三十八萬分、三十九萬分、四十萬分、四十一萬分、四十二萬分、四十三萬分、四十四萬分、四十五萬分、四十六萬分、四十七萬分、四十八萬分、四十九萬分、五十萬分、五十一萬分、五十二萬分、五十三萬分、五十四萬分、五十五萬分、五十六萬分、五十七萬分、五十八萬分、五十九萬分、六十萬分、六十一萬分、六十二萬分、六十三萬分、六十四萬分、六十五萬分、六十六萬分、六十七萬分、六十八萬分、六十九萬分、七十萬分、七十一萬分、七十二萬分、七十三萬分、七十四萬分、七十五萬分、七十六萬分、七十七萬分、七十八萬分、七十九萬分、八十萬分、八十一萬分、八十二萬分、八十三萬分、八十四萬分、八十五萬分、八十六萬分、八十七萬分、八十八萬分、八十九萬分、九十萬分、九十一萬分、九十二萬分、九十三萬分、九十四萬分、九十五萬分、九十六萬分、九十七萬分、九十八萬分、九十九萬分、一百萬分。

東京市品川區八丁通
三丁目十二番
救心本舖
電話第三〇一九九の直達
郵政郵便七二六番

[illegible][illegible]



續いて電報志願四人

學兵に一足お先き

晴の入營へお見違へる逞しさを 行壯

者願志兵陸軍第一 へ終練訓の月六

學兵の訓練は、第一に體格の鍛錬を重んずる。その爲め、毎朝五時半に起床し、朝の五時半から六時半までは、大體の訓練を受ける。その後は、學科の勉強に専念する。學兵の生活は、非常に規律正しく、厳格である。その生活の一端を、この写真を通じて、讀者に紹介する。

學帽を捨てよ創史の大業へ

學徒の父を斯くあれ



志願兵 白井君

銃後揺るぶ大戦果

つ立き沸心赤とよへ應に線前

戦局の進展は、我々の心を沸かせる。前線に立つて奮戦する兵士たちの姿は、我々の心を打ち動かす。彼らの勇気と犠牲精神は、我々の心を燃立たせる。我々も、彼らの如く、戦いに貢献する。我々の心を、前線の兵士たちの熱い心と一致させる。我々の心を、前線の兵士たちの熱い心と一致させる。

學徒の父を斯くあれ。これは、學徒の父である白井君の言葉である。彼は、學徒たちに、戦いに貢献することを勧める。彼は、學徒たちに、戦いに貢献することを勧める。彼は、學徒たちに、戦いに貢献することを勧める。

各道へ激勵員。これは、各道に激勵員を送るという計画である。これは、各道に激勵員を送るという計画である。これは、各道に激勵員を送るという計画である。

斷乎父兄の覺醒望む。これは、父兄の覺醒を望むという文章である。これは、父兄の覺醒を望むという文章である。これは、父兄の覺醒を望むという文章である。

實彈射撃。これは、實彈射撃の練習風景である。これは、實彈射撃の練習風景である。これは、實彈射撃の練習風景である。

志願徹底へ。これは、志願を徹底させるという文章である。これは、志願を徹底させるという文章である。これは、志願を徹底させるという文章である。

總務部配直に。これは、總務部の配直に関する文章である。これは、總務部の配直に関する文章である。これは、總務部の配直に関する文章である。

諸君の注意。これは、諸君の注意を喚起する文章である。これは、諸君の注意を喚起する文章である。これは、諸君の注意を喚起する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。



敵學兵と雌雄決せん

敵學兵と雌雄決せん。これは、敵學兵と雌雄を決するという文章である。これは、敵學兵と雌雄を決するという文章である。これは、敵學兵と雌雄を決するという文章である。

學徒出陣を語る座談會開催。これは、學徒出陣を語る座談會を開催するという文章である。これは、學徒出陣を語る座談會を開催するという文章である。これは、學徒出陣を語る座談會を開催するという文章である。

防衛訓練。これは、防衛訓練に関する文章である。これは、防衛訓練に関する文章である。これは、防衛訓練に関する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。

五君揃って陸軍學校へ。これは、五君揃って陸軍學校へという文章である。これは、五君揃って陸軍學校へという文章である。これは、五君揃って陸軍學校へという文章である。

仁川附近で射撃。これは、仁川附近で射撃という文章である。これは、仁川附近で射撃という文章である。これは、仁川附近で射撃という文章である。

志願徹底へ。これは、志願を徹底させるという文章である。これは、志願を徹底させるという文章である。これは、志願を徹底させるという文章である。

總務部配直に。これは、總務部の配直に関する文章である。これは、總務部の配直に関する文章である。これは、總務部の配直に関する文章である。

諸君の注意。これは、諸君の注意を喚起する文章である。これは、諸君の注意を喚起する文章である。これは、諸君の注意を喚起する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。

各地の出来事。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。これは、各地の出来事に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

大和と水軍。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。これは、大和と水軍に関する文章である。

火の響 京城寶塚劇場 明治座

7日 長人 城南映畫劇場 喜樂館

士當 富 見学の記

武蔵映畫の決定版 殺風篇 決闘般若坂 開公日七 場劇陸大